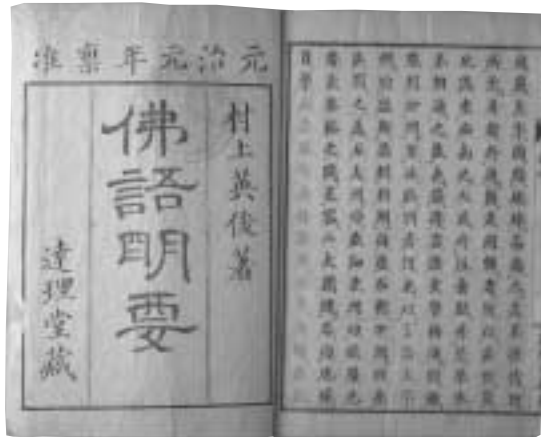


本学図書館の貴重書



『佛語明要』

村上英俊著

1864（元治1年）

村上英俊(1811-1890)は幕末・明治前期のフランス語学者で、諱を義茂いみなと言い、茂亭などと号した。漢学・蘭学を学んだ後、久間象山のすすめでフランス語を習得、幕府の藩書調所教授方・翻訳掛となり、明治維新以後は私塾でフランス語の指導と著訳に従事し、黎明期の仏学教育に貢献した。明治18年にはフランス政府よりレジョン・ドヌール勲章を受けている。本書は彼が安政6年(1859)に発行した『仏蘭西詞林』(フランス語辞典)に改訂増補を加え、10余年の歳月を費やして完成した今日の辞書の形態をとった本格的な仏和辞典である。3冊4巻より成り、フランス語の語彙はすべて筆記体、対訳の和文は縦書で記されている。幕末、対仏交渉の頻繁な折、如何に重宝されたかは言うまでもない。